

# 茅ヶ崎漁港西側の飛砂堆積箇所付近 の現地調査

一般財団法人土木研究センター

なぎさ総合研究所長兼

日本大学客員教授理工学部海洋建築工学科

工博 宇多高明

Dr. Takaaki Uda

## はじめに

- 従来，茅ヶ崎漁港の西側隣接部では，当地で卓越しているほぼSW方向からの卓越風的作用により，北東方向への飛砂が著しく，海岸背後の保安林に沿って走る自転車道への飛砂の堆積が起き，交通障害をもたらしてきた。
- この付近に堆積している砂は，柳島地区での養浜砂が東向きの沿岸漂砂により運ばれた上，上記の飛砂により内陸方向へ運ばれたものである。
- したがって砂の有効利用のためには，自転車道付近に堆積した砂を茅ヶ崎中海岸や菱沼海岸での養浜材として再利用することが必要である。

## はじめに(続)

- このことから既に前年度までに堆積した飛砂を採取して養浜材として再利用するなど有効活用を図ってきたが、**2025年**には、茅ヶ崎漁港の西側隣接部の砂掘削箇所での飛砂の再堆積量が小さく、サンドリサイクルのための砂採取が難しいとの報告があった。
- そこで**2025年9月25日**には当地での飛砂の堆積状況を現地調査により調べた。図-1には現地調査時の写真撮影地点（**St.1～St.6**）の位置を示す。



図-1 茅ヶ崎漁港西側の砂採取箇所付近の衛星画像と写真撮影地点 (St.1~St.6)



写真-1



写真-2



写真-3



写真-4



写真-5



写真-6

## まとめ

- ① 茅ヶ崎漁港の西側隣接部での飛砂の堆積は、堆砂垣周辺で著しく、堆砂垣前面の斜面では相対的に堆積量が小さかった。
- ② 堆砂垣の前面斜面での堆積は、堆砂垣近傍とその背後で十分砂が堆積した後に進むと考えられる。
- ③ すなわち飛砂の堆積が起きていないのではなく、堆砂垣周辺で飛砂の堆積が著しいこと、したがって砂の採取は2列の堆砂垣の間で行うことが効率的で、とくに堆砂垣の西側端部で堆積が著しいので、そこを中心に行えばよいことが分かった。